

CVL-ManagerZero

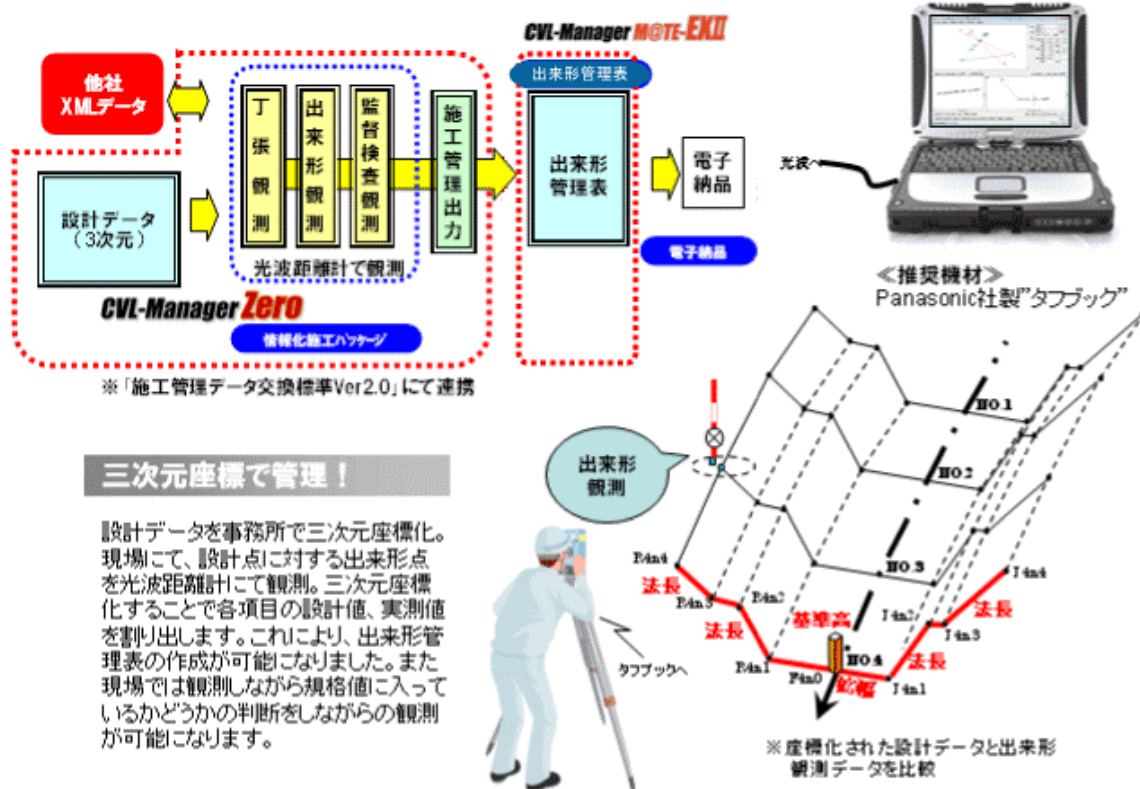
福岡県新技術・新工法活用促進制度 登録 登録 No0701063A

<http://f-newtec.jp.org/>

TS(トータルステーション)を用いた出来形管理とは?

- 1、光波距離計 評価基準: 国土地理院3級以上
- 2、「設計データ作成ソフトウェア」
→「CVL-ManagerZero情報化施工パッケージ」にて作成
- 3、施工管理データを搭載したトータルステーション出来形管理要領に準じた現場ソフト→「CVL-ManagerZero情報化施工パッケージ」にて観測及び入出力
- 4、TS出来形に対応した「帳票作成ソフトウェア」

作成までの流れ



《他社ソフトとの連携について》作成した設計データは、「施工管理データ交換標準 Ver2.0」データ取り込みに対応した各社「TSを用いた出来形管理ソフト」に取り込み、観測することが可能です。また、観測したデータを、「施工管理データ交換標準 Ver2.0」データで出力できれば「CVL-ManagerZero情報化 施工パッケージ」で取込、当社出来形管理表へ連携ができます。

全てが解決！

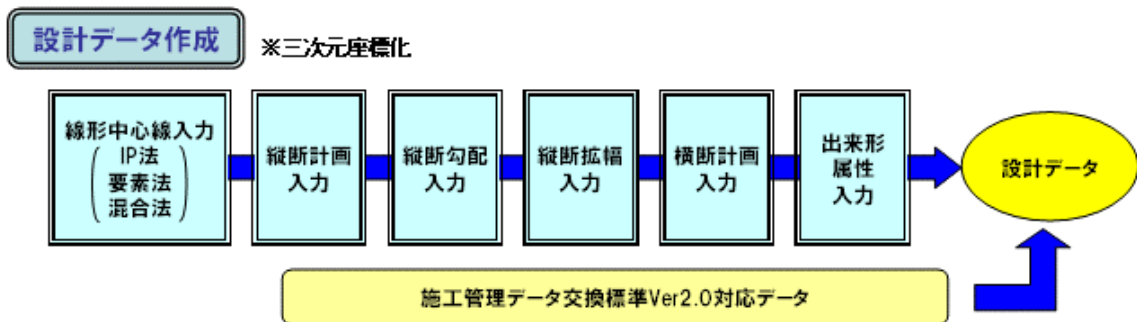
CVL-Manager Zero

情報化施工パッケージ

CVL-Manager M@TE-EXT

出来形管理表

- 《特徴》①設計データが作成可能。作成機能を持つことで、現場での変更に対応。修正したデータをそのまま設計データとして利用できます。
- ②ほとんどの出来形管理表に対応。
- ③光波距離計を選びません。自動追尾マシンを使えばワンマン観測も可能です。
- ④丁張観測で現場での三次元座標管理が可能。出来形観測時のみでなく、工事の期間中利用することが可能です。



- 《流れ》①後方交会法、もしくは放射観測にて器械を設置。
- ②「設計データ作成」で作成した出来形観測の対象となる設計点を選択、光波距離計にて観測。
- ③法長、拡幅、基準高の属性を確認しながら観測。「管理対象の入力」で断面毎のデータを入力してあることが条件です。
- ④「出来形csv出力」でMATE出来形管理表へ出力、帳票を選択して出力。最終電子納品データとして成果提出します。

《対応項目》法長、拡幅、基準高、比高

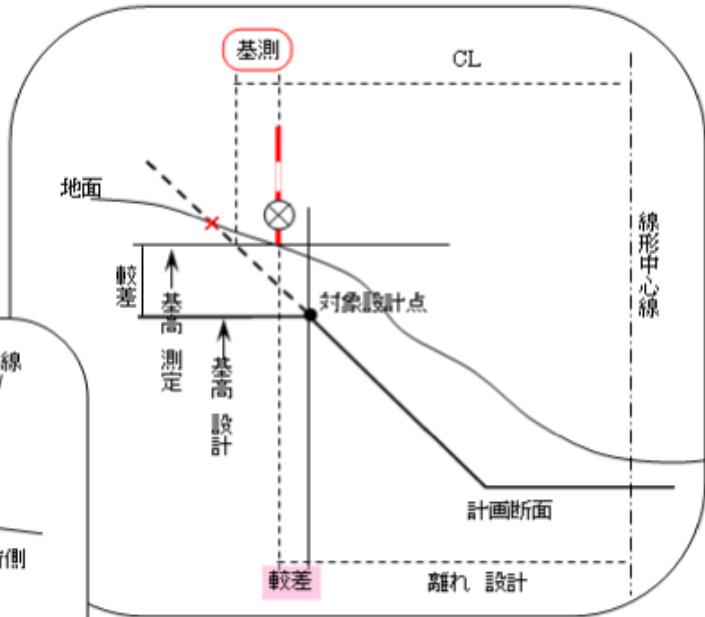
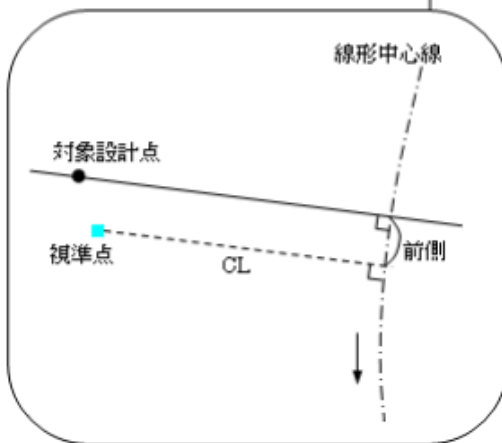


丁張観測

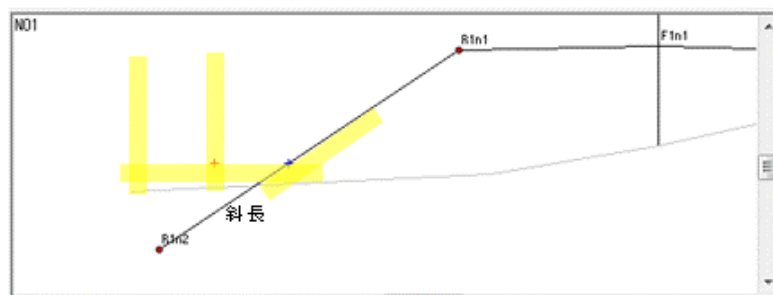
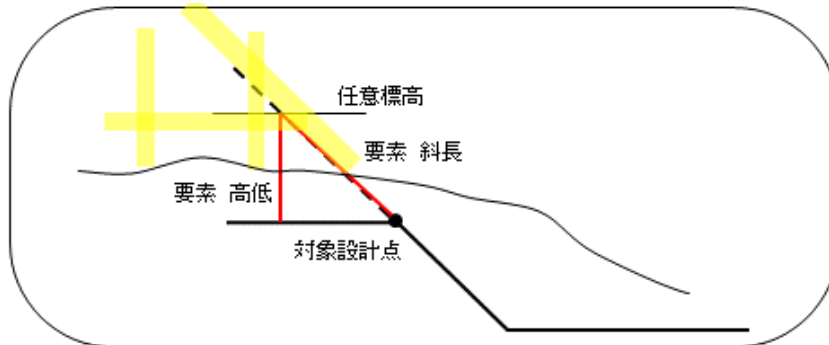
→1回の観測で解ること…

※目指すは三次元座標現場管理

基高 設計	0.400	方向	0.000
測定	1.252	基入	1.260
較差	-0.852	基測	1.987
離れ 設計	5.000	C.L	4.448
測定	4.448	前側	0.083
較差	0.551	左側	-0.280
要素 標高	-0.440		
高低	0.840	斜長	1.514



※基測 が“0”になれば地面と計画断面との交点になります。



横断面画像イメージ

商品のお問い合わせはコチラ

レンタル